

# 根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園：湿地の観察会（2020/1/25 実施）～

参加者: 4名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

あまり日差しのない寒い日でしたが、昨年1月の観察会では池に氷が張っていたとありますが今年は氷どころか霜が降りた様子もありません。そこまでの冷え込みはないのですね。

アシはすっかり冬枯れていますが、足元を見ると春に花を咲かせる草たちの芽がしっかり伸びていて緑が濃い感じがします。このまま順調に伸びて早く花を咲かせるのでしょうか？



オオイヌノフグリとヒメオドリコソウなど



湿地は冬枯れの植物で覆われている

冬枯れの植物の様子に皆さんの関心が注がれた珍しい観察会になった。きっかけはヒメガマで、よく見ると黄葉になっても、その厚みと形状がその名残を留めているようである。次にこれと思ったのは実はセイタカアワダチソウで、変色したとはいえ穂の形状でそれと判明した。又、全体が変色したとはいえ紛れないのはヌカキビであった。

芝生広場北西の角にあるロウバイの内部花弁。紅色をまず確認して安心したが、外側の花弁が黄色一色でなく花弁の根っ子や先端付近に変色部分が見受けられた。ガクの変形か等の説も出たが、未解明のまま残った。実の残骸を拾ったが、上の変色部分の解明には至りそうもない。





カルガモの中に1羽だけマガモ?マルガモ?

冬枯れアシの間からアオジの声、順に飛び立って戯れている。3羽確認。池にはカルガモが10羽ほど。常駐しているはずだが久しぶりに姿を見た。中に一羽、全体に茶色ぽいのがいる。これはマガモ?それともマルガモ?(マルガモはマガモとカルガモの交雑種)

先月柿の木で見かけたハヤニエは?と捜したが見つけれなかった。モズがもう食べてしまったのだろうか?上の枝にはハラビロカマキリの卵がついている。

広場では梅がすでにほころんでいて、その枝にモズ(♀)が留まった。良い構図だが、暖冬故か少し早いようだ。モズは何処かへ飛んでいった。しばらくするとヒヨドリ of 激しい声。藪影からおいたてられたのは、先ほどのモズコだ。モズがヒヨドリに追われる図は、少々意外な気がした。

広場を横切って飛んだ鳥はシロハラだ。キリの木の下にしばらくとどまっていた。樹の高いところで鳥の声。見上げるとメジロ、シジュウカラ、エナガ、コゲラの混軍だった。



セイタカアワダチソウ

池の中にはカルガモが十数羽来てましたが、よく見ると一羽嘴の先の橙色がないのがいました。黒っぽい色と黄色が混じった嘴をしていて、体つきが少し丸っこい感じで、マガモの雌ではないか?と思います。去年はマガモのつがいが一組カルガモと一緒に来てました。今日は、雄は見かけません。

雌だけでいるのなら、どういうつもりでカルガモの中に混じっているのだろうか、何とか雄に出会ってほしいとか、いろいろ考えてしまいました。

芝生広場では、ヒヨドリがモズを激しく追いかけるところを見ました。別に変わった鳥や植物などに会えなくても、ゆっくり周りを見てみると思いがけない出会いがあって面白いものです。



上の広場のウメ

今日は曇り空のせいかオオイヌノフグリの青い花は閉じてひっそりとしている。タネツケバナは花をつけているものを2本確認した。白い穂のようなもの、何の種か?セイタカアワダチソウでした。